

平成 27 年度 立正大学心理学部公開講座

Rissho University Faculty of Psychology OPEN LECTURE 2015

生活の場での消費者心理学



日時

第1回 10月16日(金) 18:30～20:00

第2回 10月23日(金) 18:30～20:00

会場

立正大学品川キャンパス

総合学術情報センター(11号館)5階 1151教室

共催 立正大学心理学部・品川区
(パートナーシップ講座)

平成 27 年度 立正大学心理学部 公開講座 生活の場での消費者心理学

今年の立正大学心理学部の公開講座は、「消費」をとりあげます。都会で暮らす我々は、日々消費生活をしていかなければ生きていくことができません。消費場面では人と人とのふれ合い場面が必ず存在するため、この分野は対人心理学が力を発揮する分野の一つです。

第 1 回を担当する高橋准教授は「地域社会における商店街のあり方」というテーマで地域社会の中で住民の皆さんの交流の核となる『とびきり居心地のよい場所』はどこかについて、参加者の皆さんと一緒に考えていきます。

第 2 回は「だまされない消費者になるために」というテーマについて、八木准教授、西田教授、有賀准教授の 3 人が担当します。私たち消費者がだまされてしまう心理や、その対策などについて、デモンストレーションやミニゲームを交えながら分かりやすく解説します。

第 1 回 10 月 16 日 (金) 開場 18:10 開演 18:30 終了 20:00

地域社会における商店街のあり方

立正大学 心理学部 対人・社会心理学科
准教授 高橋 尚也 (たかはし なおや)

モノを買うとき、「どんなモノを買うか」だけでなく、デパートで買うのかスーパーで買うのかといった「どこで買うか」という「消費の場」も重要になります。「消費の場」から、人はどのような心理的効果を得ているのでしょうか？地域の中には、商店街という消費の場があります。しかし近年は、「シャッター街」という言葉にたとえられるように、地域内での「消費の場」は衰退してきているとの指摘があります。本講座では、商店街における消費の実態とその心理的機能に関する知見を紹介することを通して、これからの地域社会における商店街のあり方について考察していきます。地域社会における商店街のあり方を考察していく上で、「コミュニティの核となる『とびきり居心地のよい場所』はどこか」をみなさんと一緒に考えながら、その「場」が持つ意味に注目し、今後の商店街のあり方へのヒントを考えていきます。

講師プロフィール



■ 最近の研究成果

- ・高橋尚也・川上善郎・川浦康至 (2015). 商店街に対する態度と購買意識の類型別にみた個人の社会的資源 立正大学心理学研究所紀要, 13, 15-24.
- ・高橋尚也・川上善郎・川浦康至 (2014). 商店街に対する態度と購買意識による類型別にみた地域愛着 立正大学心理学研究所紀要, 12, 77-86.
- ・高橋尚也 (2013). 行政とのパートナーシップ 加藤潤三・岡本卓也・石盛真徳 (編) コミュニティの社会心理学 ナカニシヤ出版

■ 学会活動・社会的活動

- ・日本社会心理学会
- ・日本心理学会
- ・Society for Community Research and Action
- ・The 31st International Congress of Psychology プログラム委員

■ 研究テーマ

- ・市民参加の持続性と多様性をもたらすコミュニティ組織運営手法の開発
- ・地域における犯罪予防活動と犯罪者の社会的受容に関する研究
- ・自然災害における職業的救済者の惨事ストレス

だまされない消費者になるために

立正大学 心理学部 対人・社会心理学科
准教授 八木 善彦 (やぎ よしひこ)
教授 西田 公昭 (にしだ きみあき)
准教授 有賀 敦紀 (ありが あつのり)

人はなぜ、だまされるのでしょうか。テレビでは、消費に関わる詐欺やだましのニュースが毎日のように報道され、その手口についても詳しく紹介されています。にもかかわらず、同じような手口による詐欺やだましの被害は後を絶ちません。実際に被害にあわれた方の中には、自身がよく知っている手口によって、だまされてしまう方もいます。この講演では、様々な心理学の分野から、人がだまされる仕組みについて解説していきます。例えば消費者心理学の観点からは、消費者が無意識のうちに陥りやすい思考の罠について紹介します。また、犯罪心理学の観点からは、犯罪者に狙われやすい心理状態などを解説します。この講演を通じて、私たち消費者がなぜだまされてしまうのか、また、だまされない消費者になるためにはどのような点に気をつければよいのかについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

講師プロフィール



【八木 善彦】

■最近の研究成果

- ・八木善彦 (2014) 選択肢数と選択の繰り返しが選択結果の主観的満足度に与える影響 立正大学心理学研究所紀要, 12, 75-80.
- ・八木善彦 (2012) 消費・選択行動の心理学 齊藤勇 (編著) 実験心理学—なぜ心理学者は人の心がわかるのか? ナツメ社

■学会活動・社会的活動

- ・日本応用心理学会理事
- ・日本ビジネス心理学会理事

■研究テーマ

- ・消費者の購買意欲
- ・広告



【西田 公昭】

■最近の研究成果

- ・吉川肇子・杉浦淳吉・西田公昭 (編) (2013) 大学生のリスク・マネジメント ナカニシヤ出版
- ・西田公昭 (2009) だましの手口：知らないと損する心の法則, PHP 研究所

■学会活動・社会的活動

- ・日本グループ・ダイナミックス学会理事
- ・日本脱カルト協会代表理事

■研究テーマ

- ・マインド・コントロール現象
- ・詐欺・悪質商法の被害者心理過程



【有賀 敦紀】

■最近の研究成果

- ・Ariga, A. (2015). The social-devaluation effect: Interactive evaluation deteriorates likeability of objects based on daily relationship. *Frontiers in Psychology*, 5: 1558, 1-8.
- ・有賀敦紀・井上淳子 (2013). 商品の減少による希少性の操作が消費者の選好に与える影響 消費者行動研究, 20, 1-12.

■学会活動・社会的活動

- ・日本心理学会
- ・日本認知心理学会
- ・日本基礎心理学会

■研究テーマ

- ・視覚認知
- ・意思決定

募集要項

- ◆ 対象：16歳以上（お子様連れも可）
- ◆ 定員：200名（定員を超えた場合は抽選）
- ◆ 受講料：無料

◆ 申込方法：

① **往復はがき** 往復はがきに、講座名「立正大学心理学部公開講座」・住所・氏名（ふりがな）・年齢・性別・連絡先電話番号をご記入の上、〒140-8715 品川区広町2-1-36 品川区 文化観光課 生涯学習係までお申し込みください。

② **電子申請** 品川区ホームページの「電子申請」ページから申し込みできます。

<http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/>

◆ **申込期間**：平成27年9月11日（金）～10月2日（金）

◆ **問い合わせ**：品川区 文化スポーツ振興部 文化観光課 生涯学習係 Tel 03-5742-6837
 メールアドレス 立正大学心理学部 ris.psychology@gmail.com
当日の問合せ 立正大学心理学部事務局 Tel 03-3492-6196

※ 小さなお子さんを同伴なさっても結構です。お子さんがじっとしていられなくなったら、静かに会場の外に出て、リラックスさせてあげてください。（託児は実施いたしません。）

※ ご提供いただいた個人情報は、「立正大学心理学部公開講座」以外には使用いたしません。

〈往復はがき記入例〉

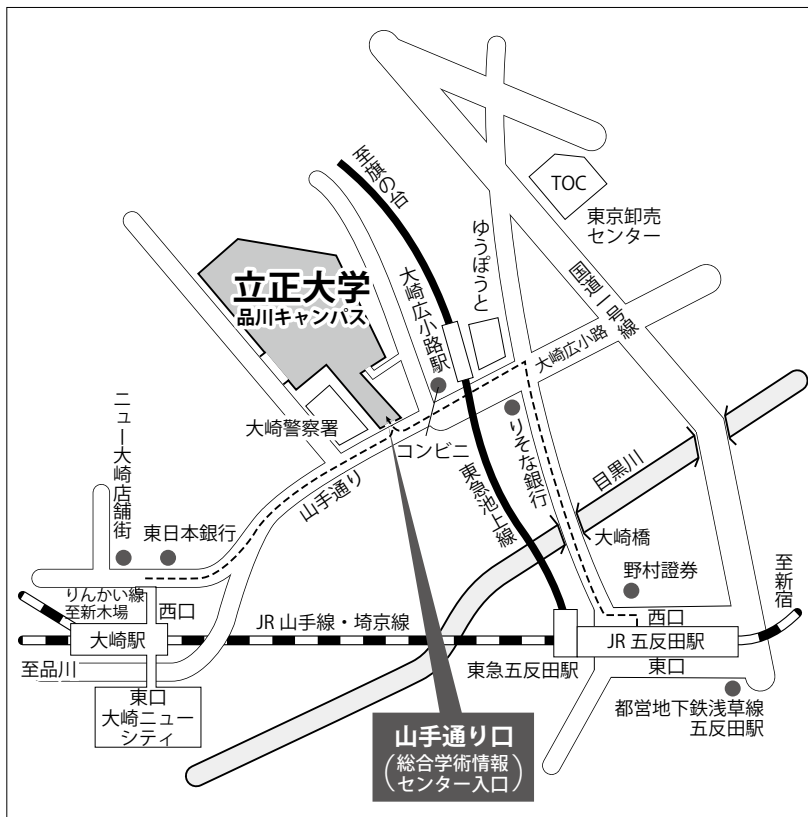
〒140-8715	品川区広町2-1-36	1. 「立正大学心理学部 公開講座」
品川区文化観光課		2. 住所
生涯学習係		3. 氏名（ふりがな）
		4. 年齢
		5. 性別
		6. 連絡先電話番号

会場案内

立正大学品川キャンパス

総合学術情報センター 11号館 5階 1151教室（山手通り口よりお入りください）

〒141-8602 品川区大崎 4-2-16 Tel 03-3492-6196（心理学部事務局）



※ 駐車・駐輪スペースがございませんので、車・バイク・自転車等でのご来校はご遠慮ください。

■交通アクセス

JR線・りんかい線	大崎駅下車	徒歩5分
JR線・都営浅草線	五反田駅下車	徒歩5分
東急池上線	大崎広小路駅下車	徒歩1分
東急バス渋41 (渋谷駅-大井町駅)	大崎警察署前下車	徒歩1分